

令和5年度第1回河内長野市文化振興計画推進委員会 会議録

日時 令和6年2月22日（木）午後1時00分～2時30分
場所 河内長野市役所801（西）会議室、
出席者 車谷委員、佐藤委員、宮崎委員、宮地委員、寶楽委員
飯田委員、おぐし委員、吉年委員、尾花委員、池内委員
（河内長野市）小川部長、二井課長、東補佐、福本補佐、山口係長、西尾副主査
（河内長野市文化振興財団）前田館長、吉富次長、辻野マネージャー、相輪マネージャー

山口係長

ただ今から、河内長野市文化振興計画推進委員会を開会いたします。委員の皆様には、公私何かとお忙しいところ、ご出席いただきましてありがとうございます。私は本日の司会を務めさせていただきます文化・スポーツ振興課の山口です。開会に先立ちまして、本日の資料の確認をさせていただきます。委員の皆様には、事前に一部資料を郵送させていただいておりますが、資料に不足はありませんでしょうか？

それでは、本日の委員の皆様の出席状況をご報告申し上げます。

河内長野市文化振興計画推進委員会運営規則第5条第2項の規定により、10名の委員のうち過半数の5名以上の出席が必要となっております。現在、出席10名（1名遅参）で会議成立の要件を満たしておりますので、ご報告いたします。

本日は新たな任期の始まりとなります。そこで、生涯学習部長の小川から委嘱状を交付させていただきます。任期は2年となっておりますので、よろしく願いいたします。

<委嘱状交付>

山口係長

皆様ありがとうございました。続きまして、委員の皆様をご紹介します。車谷哲明様、佐藤有希様、宮崎優也様、宮地泰史様、宝楽陸寛様、飯田由美子様、おぐしみき様、吉年海様、尾花由佳理様、池内宏明様。

続きまして、事務局職員の紹介をさせていただきます。生涯学習部長の小川でございます。文化・スポーツ振興課長の二井でございます。文化・スポーツ振興課課長補佐の東でございます。文化財保護課課長補佐の福本でございます。文化・スポーツ振興課副主査の西尾でございます。最後に、私、文化・スポーツ振興課係長の山口でございます。また、本日はラブリーホールの指定管理者である文化振興財団からも出席いただいておりますので、併せてご紹介いたします。ラブリーホール館長の前田様でございます。事務局次長の吉富様でございます。管理グループマネージャーの辻野様でございます。事業グループマネージャーの相輪様でございます。

議事に移ります前に、本日の会議は、新しい任期のもとでの最初の会議ですので、委員長・副委員長の選任をしていただく必要がございます。委員長および副委員長は、河内長野市文化振興計画推進委員会運営規則第4条第1項の規定により、委員の互選によって選出となっておりますが、いかがでしょうか。どなたか推薦はございますか。

池内委員

事務局に一任します。

山口係長

それでは、事務局案として、委員長は車谷委員に、副委員長は宝楽委員にお願いしたいと思いませんがいかがでしょうか。

ご異議なしと認め、車谷委員長、宝楽副委員長にお願いしたいと思います。それでは、恐れ入りますが、車谷委員長・宝楽副委員長は、委員長席と副委員長席へ移動をお願いします。

それでは、ここで、生涯学習部長の小川から一言ごあいさつを申し上げます。

小川部長

生涯学習部長の小川でございます。本日はお忙しい中ご出席賜り誠にありがとうございます。また、平素は河内長野市文化振興計画推進委員会をはじめ、本市文化行政に格別のご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

本市では、様々な文化振興を図っており、内外からも高く評価され、数年前大阪南部で初の総務大臣表彰もいただきました。このことが市民の文化レベルの向上、そして誇りにつながっていると感じております。子どもたちの教育だけでなく、社会教育など色んな場面で文化振興が河内長野に根付いているということが市民にとって非常に誇りとなっております。

河内長野市では現在、ブランディング事業を進めており、職員、そして市民の皆様が河内長野を好きに、誇りになっていこうということからスタートしております。

今年の4月1日に、河内長野市は市制施行70周年を迎えます。また、大阪関西万博もでございます。それらに文化振興として貢献していこうと色々考えている状況であります。

文化振興計画では、「市民が文化を身近に感じ、いきいきと心豊かに暮らすまち～ひとと人がめぐりあい、感動と活力を生む河内長野型文化事業の創出～」ということで取り組んでまいりました。皆様にはこの計画の進捗状況をいろんな立場いろんな観点からご意見いただいて評価いただきたいと思っております。この新しい時代に合わせて、世代も分野も様々な方に来ていただいております。令和7年度に第2期は終了となり、令和8年度にスタートできるよう次期計画も策定しなければなりません。皆様のご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

山口係長

それでは、車谷委員長、今後の議事進行をよろしく願いいたします。

車谷委員長

委員長を拝命しました車谷でございます。皆様方のご協力ご支援がなければ委員会を進められませんので、どうぞご協力の方よろしく願いいたします。簡単でございますけども、ご挨拶にかえさせていただきます。

宝楽副委員長

皆様、改めてよろしく願いいたします。15歳のときから河内長野のまちづくりに関わり、今年で27年ぐらい活動しております。自分の中で、まちづくりであったり、仕事の柱となっているの

がこの文化振興であり、ラブリーホールの皆様や宮地委員、吉年委員とは活動を共にしてまいりました。計画の 30 ページに図が載っていますが、これは当時、委員会で喧々諤々の議論をして生み出した循環の図であり、河内長野市はこの図に基づいて動いてきたと実感があります。引き続き皆様と切磋琢磨して議論をできればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

車谷委員長

会議を進めてまいります。案件 2 会議の公開及びその方法について、事務局から説明を求めます。

山口係長

それでは、会議の公開について説明させていただきます。

河内長野市附属機関等の設置、運営及び公開等に関する指針第 11 項に基づき、河内長野市で行われている会議は原則、公開となっており、第 12 項に「会議の公開又は非公開は、附属機関等の長が当該附属機関等にはかって決定する」とあります。そこで、過去に開催しました当委員会の会議においても公開としておりましたことから、引き続き、当委員会は公開とさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

また、同指針第 13 項に「会議の公開は、会議の傍聴を希望する者に、当該会議の傍聴を認めることにより行う」とありますので、傍聴に関して必要な事項を定めさせていただきたいと思います。併せてご審議をお願いいたします。

車谷委員長

今後、当委員会の会議を公開することにご異議ございませんか？意義なしと認め、当会議を公開とし傍聴を許可します。傍聴者がおられるようであれば入室させてください。

それでは、次の案件に移ります。案件 3 第 2 期文化振興計画の進捗状況について、事務局から説明をお願いします

二井課長

進捗状況報告の前に、第 2 期文化振興計画の概要について簡単にご説明させていただきます。計画の概要版をご覧ください。本市は平成 3 年に河内長野市文化振興財団を設立し、平成 4 年に文化会館を開館することで、文化活動の総合的な拠点として独自性・創造性を発揮しながら多くの市民の参画をいただき事業を展開してまいりました。その後第一期河内長野文化振興計画を策定し、現在は第二期の計画期間である平成 28 年度から令和 7 年度までの 10 年間のうちまもなく 8 年が過ぎようとしているところです。現在の計画は、「市民が文化を身近に感じ、いきいきと心豊かに暮らすまち～ひとと人がめぐりあい、感動と活力を生む河内長野型文化事業の創出～」を基本理念とし、1 つ目に「市民がつながり地域が輝く」、2 つ目に「地域がつながりまちが輝く」を目標に掲げております。そのもとで、4 つの方針を持って取り組んでおります。方針 1 「市民が主役となる感動の場・創造の場づくり」としまして、文化会館としての本格的な機能を維持しながら、音楽・舞踊・ミュージカル・伝統芸能等多彩な公演を行い、身近に本物に触れられる機会を提供し、市民が学びから、文化に出会い、主役となる場を創造し、そのような場づくりに取り取むというところでございます。方針 2 「人と文化、ひとと人をつなぐ人材づくり」としまして、行政内はもちろん文化に関わる人材・団体との交流や連携を進めたり、そのコーディネーターの育成やプラットフォーム

ムの形成、またその支援などに取り組むということでございますが、中々取り組んだり発展させることの難しさを感じております。方針3「人の循環を深め、心豊かになる環境づくり」としまして、アウトリーチによって高齢者から子どもたちまでが文化に触れる機会を作ったり、文化活動による結びつきが地域課題の解決に繋がることであったり、地場産業や歴史文化遺産を生かした文化活動による地域振興を図るということでございます。方針4「感動と循環が生み出す魅力の発信」としまして、様々な場所や情報発信ツールを活用することで市民の参加を促したり、文化活動の取り組みの広がりやその成果評価を発信するというところでございます。また、文化活動による成果を観光に活かしたり本市への関心を高めたりしていくような活動でございます。

現計画の期間においては、ウィズコロナや時代の急激な変化などもございます。計画を十分に進められたかどうかというところは、できていない部分もあると自認しております。この後、方針に基づく取り組みについて、担当からご説明しますので、皆様からの忌憚のないご意見を頂ければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

西尾副主査

お手元の「河内長野市第2期文化振興計画」関連事業一覧表をもとに、計画の進捗状況を説明させていただきます。第2期文化振興計画は、平成28年度から令和7年度の10年間を計画期間とし、2年ごとに、各施策の進捗状況の管理、評価指標による評価、担当課や連携組織の所感などによる評価・検証を行っております。そこで、今回は、令和3年度及び令和4年度の2年度分について関連事業一覧表を作成しましたので、これをご説明させていただき、委員の皆様から当計画の進捗状況の総合的な評価や意見を頂戴したいと存じます。

車谷委員長

次の案件4文化会館ラブリーホールにおける文化振興事業については、意見が重複する部分も多いと思いますので、併せて事務局から説明を求めます。

辻野マネジャー、相輪マネジャー

文化会館ラブリーホールにおける文化振興事業につきまして説明させていただきます。

車谷委員長

それでは、委員の皆様からご意見を頂戴します。

宝楽副委員長

計画の26、27ページに載っているが、当時河内長野市の文化に関する課題を議論してきた。その視点で、課題が今どういう状況にあるのかを考えると、日常的に文化活動に参加する、世代ごとに異なるニーズに対応、他分野との連携などは一定進んでいると思う。ただし、「(2)連携を推し進める体制の整備」の「活動を支えるコーディネーターの役割」で市の状況では調査中で止まっており、その検証が必要だと思う。一方で、民間では河内長野の駅前で様々な場づくりが進んでいる。市民・民間事業者の動きが本日の報告からは分からなかったもので、今後コーディネーターというキーワードに注視し情報収集を進めていただき、次期計画に活かしていければと思う。

佐藤委員

コロナが起き、個人的な関わりが無くなり、芸術の表現の方法が変わってきている。人というよりは無機質なものが中心となってきたので、人との対面で表現するというのは怖い部分もあるが、とても大事なことだと思う。

宮崎委員

国の第2期基本計画では、文化芸術活動の本質的な芸術性・創造性が一番大事なスタンスにはなるが、機能的価値・社会的価値や経済的価値、要は周辺領域にどのような価値をもたらすのかという点が強く主張されている。市の基本方針3に地域課題に取り組むとあり、ある程度具体的に書かれていて、それに向かっていると見てとれる。ただし、河内長野市というのが地域において人口減少や高齢化などの課題をどのように解決していくというのがもうちょっと見るといいかと。公共事業としての文化事業を行うときには、それを行う最終的な目的の説明は具体的にされた方がいい。

宮地委員

今、文化の在り方が多様化し、求められるものも広範囲になってきていると感じている。ラブリールホールのような大きなホールを19名で運営していくのは、かなり負担があるのではないかと思う。私が財団にいたときよりもかなり充実した内容になっているので、職員の負担はさらに大きくなっていることが想像でき、そのような中では、網羅的にしないといけないということはあるつつ、どこかに集中することも必要だと感じた。

飯田委員

文化連盟で抱えている問題として、高齢化がある。外で活躍されている方もいるが、文化連盟には入って頂けなくて、一緒には活動できていないという状況がある。それと、若い方にもっと入ってほしいという理想と現実のギャップに悩んでいる。皆様とこうして上手く繋がり盛り上げていければと思う。

おぐし委員

2021年に大阪市内から河内長野に移住してきた。駅から近いことやハザードマップなどの住むポイントを10個ほど出したら河内長野に決まった。自然豊かで住みやすい街で驚いた。大阪市内に住んでいたときは河内長野という言葉も聞いたことがなく、みんな本当に河内長野のことを知らないし、河内長野の情報が手に入らない。ラブリールホールのミュージカルスクールや映画にしても素晴らしいものがあるのに知らない人が多いので、いかに告知していくかがポイントとなる。

吉年委員

市が行うことなのでフラットにしたいという前提とは思いますが、やはりターゲットを絞らないといけない。文化では難しいかもしれないが、定量的指標が必要。また、デジタル系が少ない。ターゲットを絞って、そこに相応しい事業を行っていけば、より方針を達成したと言えるのではないかと。

尾花委員

駅前で音楽教室を行っていて、課題と感じているのが20代・30代が少ないこと。この世代は

大阪市内まで出た方が早いと感じているのではないか。小さい子どもや高齢者、ファンは楽しいことを探して色々な河内長野の情報を受けとっていることが多い。河内長野の魅力としてミュージカルや合唱団などあるが、情報として奥まり過ぎていて20代・30代の世代には難しい。この世代はわざわざコンテンツを探すことはなく、人に呼ばれていくことが多い。これらの世代を呼び込む方法がないのか。

池内委員

アウトリーチ事業で本校に声楽の方に来ていただいた。その時に歌う方がドレスを着ていて、それを見るだけでも子どもたちは本物だというインパクトがあったように見えた。方針1に本物に身近に触れ合える機会とあるが、まさしくそれだと思った。学校で何か教えるのに教科書であったり、教科書を使って何かをすることはあるが、本物が目の前にあるというのは違うというように感じた。どんどん活用していかないといけない。

車谷委員長

ありがとうございます。色々な視点、角度、また年齢的なところからも様々な提案がすでに出てきているように思う。次回の委員会のために、それぞれの課題を考えていただいたり、また、皆様色々な資料をお持ちだと思うのでご提供いただき委員会を進めていきたい。

最後に事務局の方からお願いいたします。

二井課長

第2期で十分に組み合わせたかという点と難しく、コーディネーターのことなど市の中でも重要だと認識はしていますが、非常に難しく中々実施できておりません。皆様にもご協力いただきながら取り組みたいと思います。ラブリーホールの方でも様々な事業に取り組んでいただいておりますが、市の方からしっかりと課題提供しないと地域課題解決などの目標まで達成できないと思いますので、分析を深めターゲット絞り進めていかないと改めて感じております。

市役所で組織の機構改革があり、4月から文化の所管課は文化課となります。この新しい文化課の方で、策定に向けて動きを作っていきたいと思っております。以上です。

車谷委員長

本日の案件は終了とし、これにて閉会といたします。ありがとうございました。